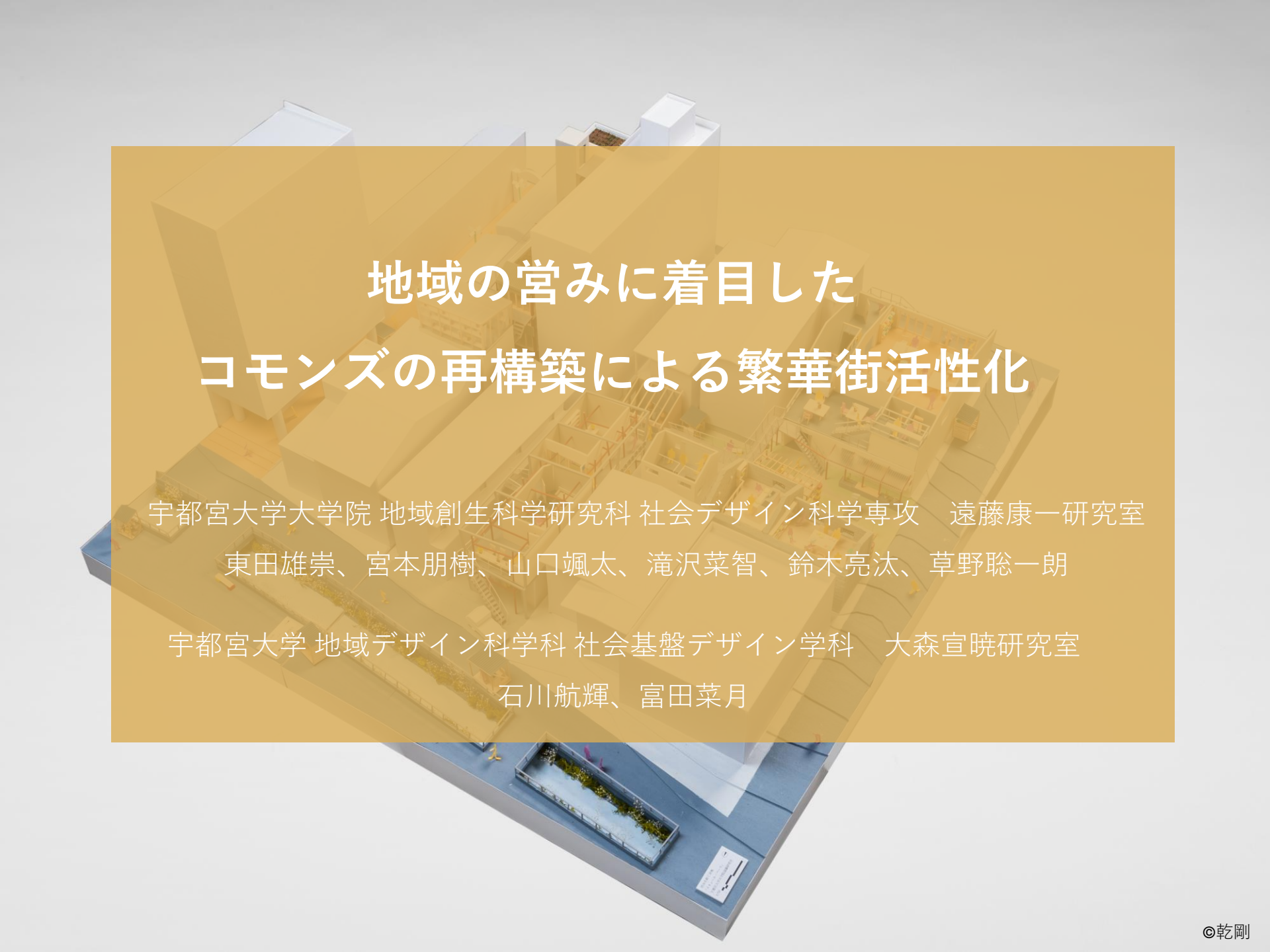




地域の営みに着目した コモンズの再構築による繁華街活性化

宇都宮大学大学院 地域創生科学研究科 社会デザイン科学専攻 遠藤康一研究室

東田雄崇、宮本朋樹、山口颯太、滝沢菜智、鈴木亮汰、草野聡一郎

宇都宮大学 地域デザイン科学科 社会基盤デザイン学科 大森宣暁研究室

石川航輝、富田菜月

目次

活動報告

1. 中間報告会
以降の取組み



2-1. 分析の検討



3. 冊子
作成



4. 今後
の展望

2-2. 冊子デザインの検討

目次

活動報告

1. 中間報告会
以降の取組み



2-1. 分析の検討



3. 冊子
作成



4. 今後
の展望

2-2. 冊子デザインの検討

1.中間報告会以降の取組み

実施内容	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
繁華街活性化	地域と学生の会議 (計画立案～イベント情報)			イベント開催 意見交換会				
	エリアリサーチ～モデル提案作成				ブックレット等の作成			
			バリアフリー調査、分析 (公共交通環境調査～データベース化)					
(地域団体の役割)	地域と学生の会議 (計画立案)			イベント実施補助				

活動を深める

- ・ブックレット等の作成を行い、活動を周知する
- ・引き続きバリアフリー調査・分析を進める

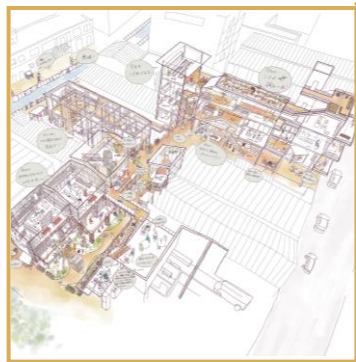
提案を用いた議論の活性化

提案を用いて、地域と学生の会議でのとりまとめを行う

次年度アクションを検討

1.中間報告会以降の取組み

これまでの活動



泉町・本町におけるコモンズモデルの作成



宇都宮まちづくり推進協議会との会議



ミニビアガーデン時の意見交換会の実施

実施内容	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
繁華街活性化	地域と学生の会議 (計画立案～イベント情報)			イベント開催 意見交換会				
	エリアリサーチ～モデル提案作成				ブックレット等の作成			
			バリアフリー調査、分析 (公共交通環境調査～データベース化)					
(地域団体の役割)	地域と学生の会議 (計画立案)			イベント実施補助				

コモンズによる繁華街活性化の実現に向けて、提案の作成、実現に向けた意見共有など、繁華街の活性化の方向性を探ってきた。

1.中間報告会以降の取組み

今回行った活動

実施内容	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
繁華街活性化	地域と学生の会議 (計画立案～イベント情報)			イベント開催 意見交換会				
	エリアリサーチ～モデル提案作成				ブックレット等の作成			
				バリアフリー調査、分析 (公共交通環境調査～データベース化)				
(地域団体の役割)	地域と学生の会議 (計画立案)			イベント実施補助				

活動を深める

提案を用いた議論の活性化

さらなる分析の継続

冊子のデザイン検討及び作成

次年度のアクションを検討

目次

活動報告

1. 中間報告会
以降の取組み



2-1. 分析の検討



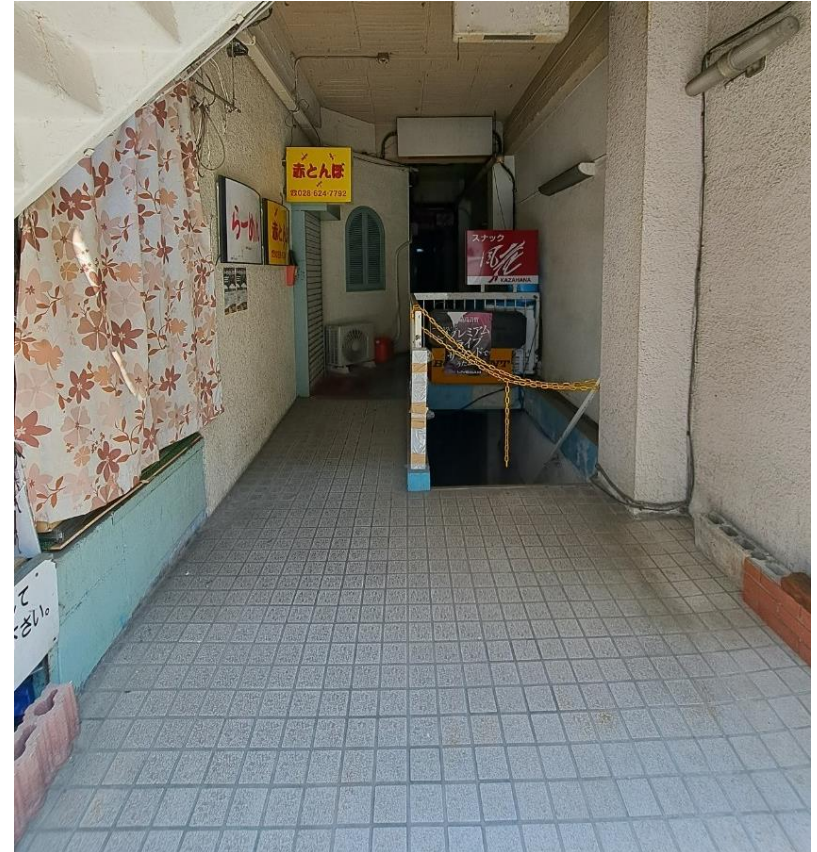
3. 冊子
作成



4. 今後
の展望

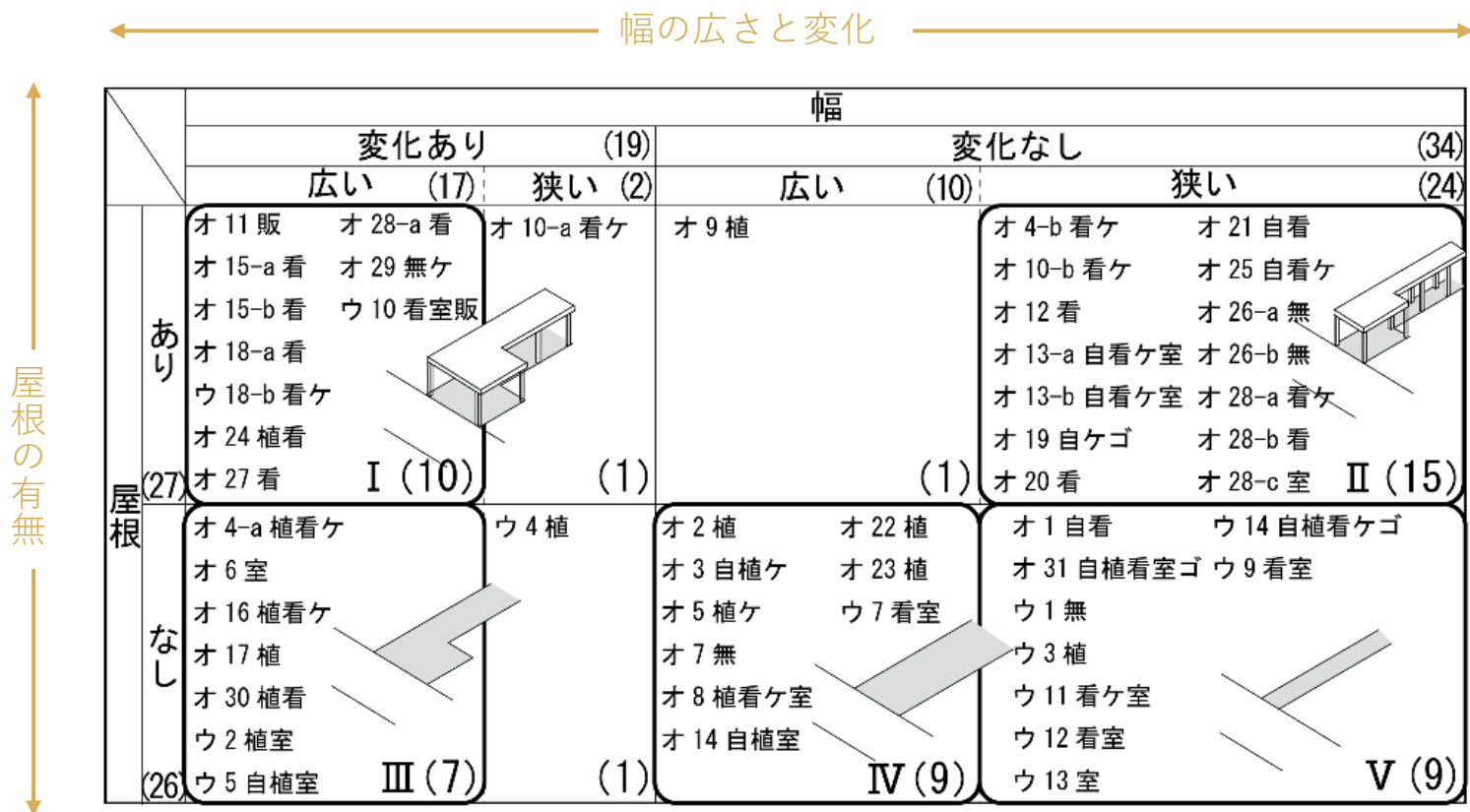
2-2. 冊子デザインの検討

2-1. 分析の継続



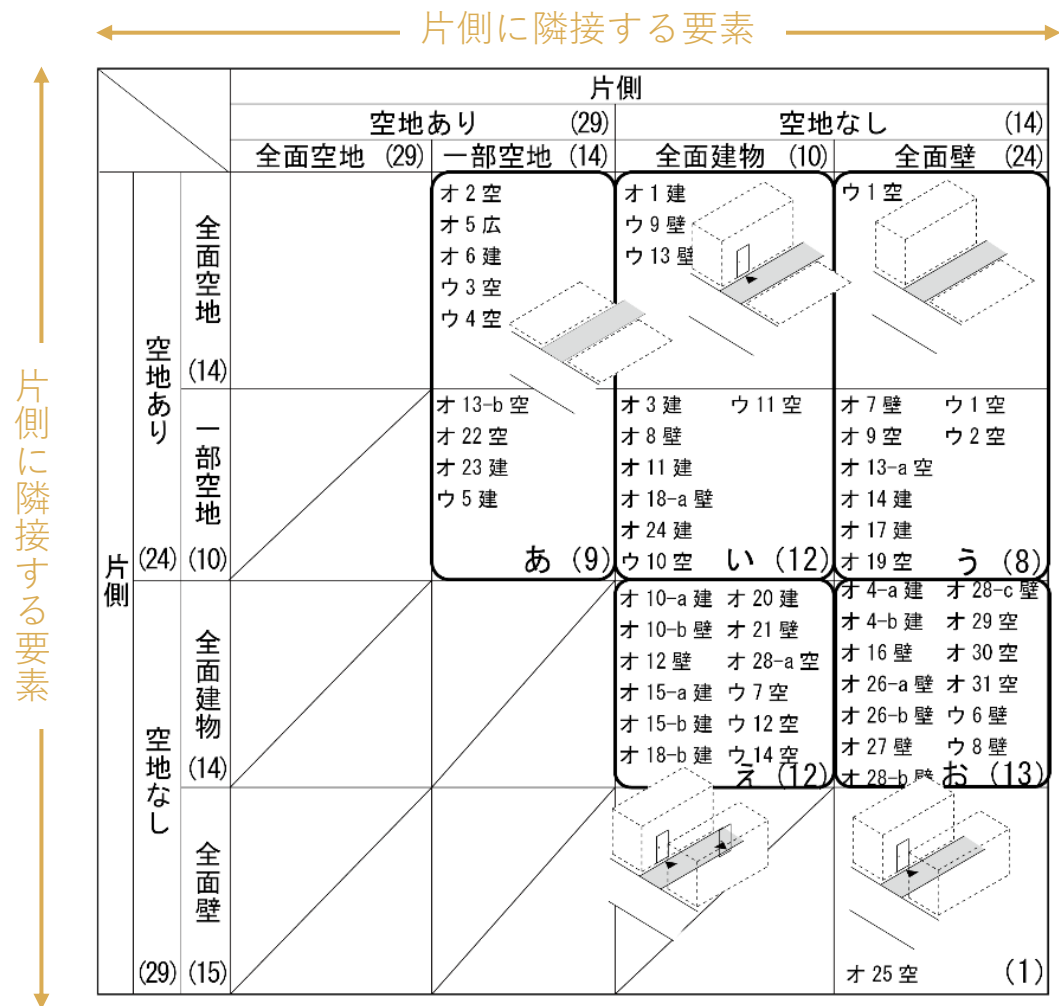
これまで、私たちは町内にみられる線状の空間（＝動線空間）
が不活性であることに着目し、調査を行ってきた。

2-1. 分析の継続



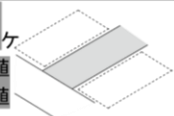
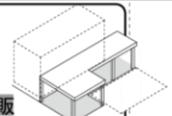
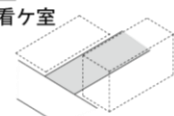
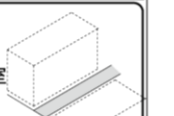
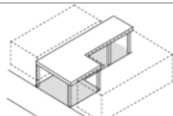
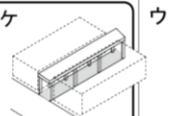
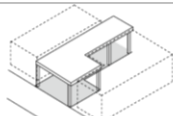
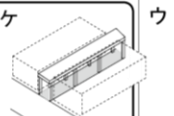
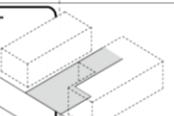
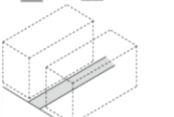
動線空間自体の空間的特徴を見出しながら、

2-1. 分析の継続



動線空間の周囲に隣接する要素も明らかにし、

2-1. 分析の継続

空間的性格 配列的性格		屋根あり		屋根なし		
		変化あり、広い	変化なし、狭い	変化あり、広い	変化なし、広い	変化なし、狭い
		I	II	III	IV	V
両側空地	あ 両側空地	凡例 オ 13-b 空、自看ケ室 動線空間 No. 奥の空間 設え		オ 6 建、室 ウ 5 建、自植室	オ 2 空、植 オ 5 壁、植ケ オ 22 空、植 オ 23 建、植  A 外部たまり場型 (4)	ウ 3 空、植
	い 片側空地 片側建物	オ 11 建、販 オ 18-a 壁、看 オ 24 建、植看 ウ 10 空、看室販 	オ 13-b 空、自看ケ室		オ 3 建、自植ケ オ 8 壁、植看ケ室 	オ 1 建、自看 ウ 9 壁、看室 ウ 11 空、看ケ室 ウ 13 壁、室 
片側空地	う 片側空地 片側壁	オ 19 空、自ケゴ B 凹凸ロジア型 (5)	オ 13-a 空、自看ケ室	オ 17 建、植 ウ 2 空、植室	オ 7 壁、無 オ 14 建、自植室 C 建物前庭拡張型 (4)	ウ 1 空、無 D 建物前庭型 (5)
	え 両側建物	オ 15-a 建、看 オ 15-b 建、看 オ 18-b 建、看ケ 	オ 10-b 壁、看ケ オ 12 壁、看 オ 20 建、看 オ 21 壁、自看 オ 28-a 空、看ケ 	ウ 14 空、自植看ケゴ	ウ 7 空、看室	ウ 12 空、看室 ウ 14 空、自植看ケゴ
空地なし	お 片側壁 片側建物	オ 27 壁、看 オ 29 空、無 	オ 4-b 建、看ケ オ 26-a 壁 オ 26-b 壁、看 オ 28-b 壁、看 オ 28-c 壁、室 ウ 6 壁、室 ウ 8 壁、室 	オ 4-a 建、植看ケ オ 16 壁、植看ケ オ 30 空、植看 		オ 31 空、自看ケ室 
		E 複数内庭たまり場型 (5)	F 内部通路型 (12)	G 複数外庭たまり場型 (3)		H 路地型 (3)

それらを組み合わせてみることによって、泉町・本町には
8の動線空間の性格があることを導いた。

2-1. 分析の継続



動線空間は町特有の特徴を作り出しながらも、分析から動線空間には
多様な空間的特徴があることが明らかとなった。

2-1. 分析の継続



仮説

「動線空間の空間的多様性は時代の変化による
個々の敷地の暮らしの変化によって、形成されてきた」

2-1. 分析の継続

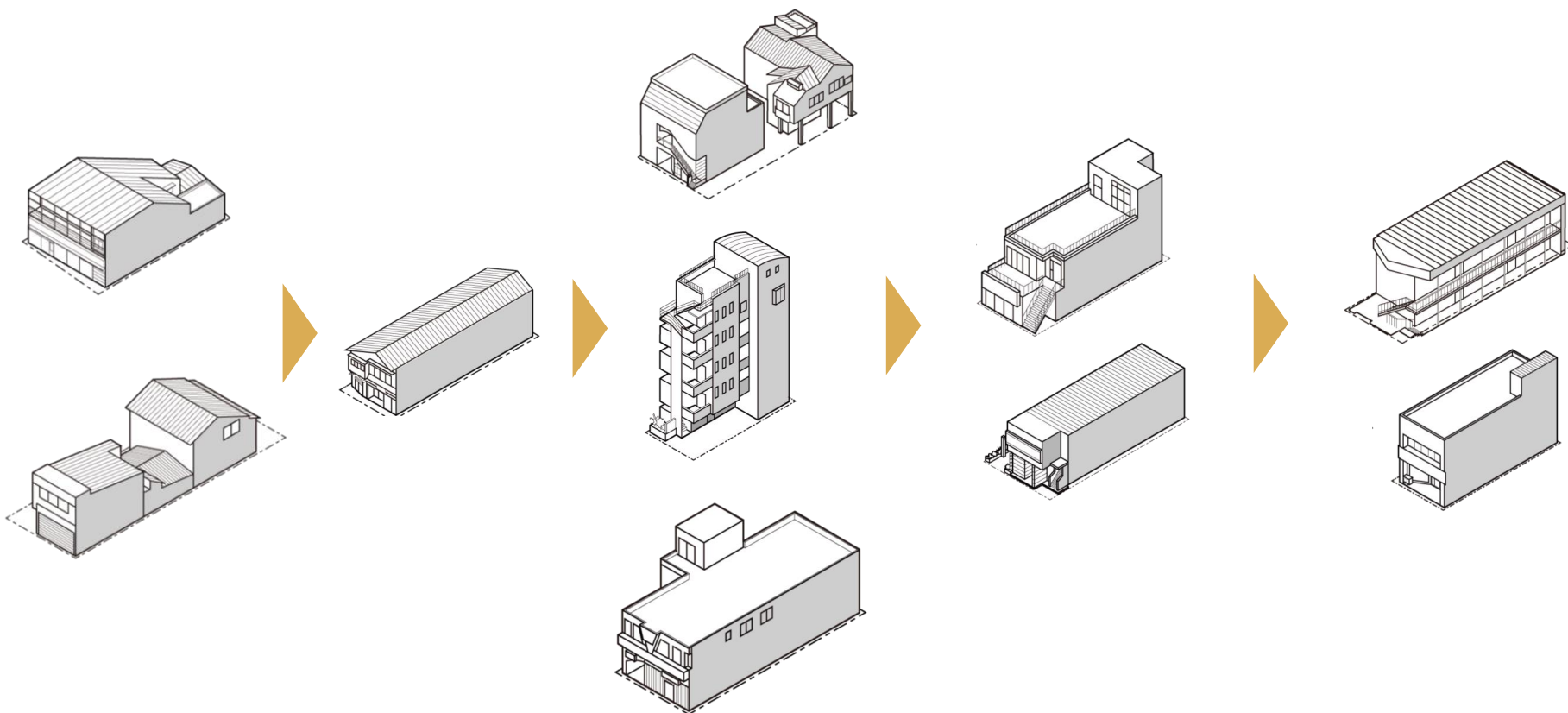
戦前、戦後頃
に成立

高度経済成長期頃
に成立

バブル期頃 に成立

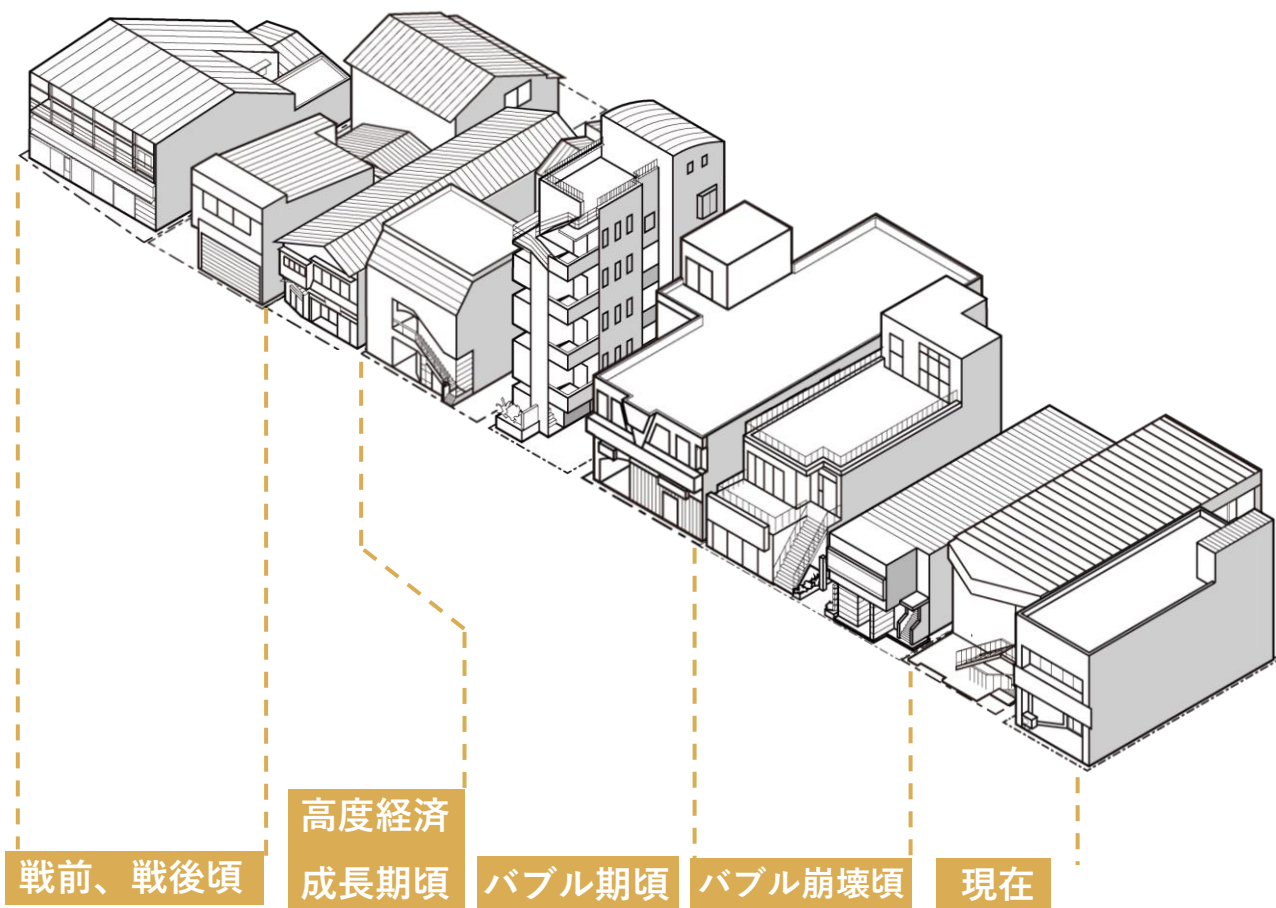
バブル崩壊頃 に成立

現在 に成立



敷地ごとの暮らしの変遷と、現在の建物を照らし合わせることで、
現在の街並みの成立過程を整理した。

2-1. 分析の継続



一見すると雑多な街並みにみえる泉町・本町にも、歴史的背景を踏まえた町独自の空間の成立過程があることを明らかにした。

2-1. 分析の継続



2024年12月10日には、バリアフリー調査を実施

2-1. 分析の継続

問題点	良い点	解決策等の提案
・車の通行量が多く、危険 ・電柱による通行の妨げ ・交差点に歩行者信号がないことと、車両用信号が高すぎることによる危険 ・道幅が狭く、車と歩行者の距離が近い ・自動販売機近くのごみが通行の妨げ	無し	・自動販売機の隣にゴミ箱を設置する ・側溝の目は細かいものにする

2-1. 分析の継続

空間分析



コミュニティ分析



動線空間の
さらなる分析

バリアフリー調査に
よる空間の危険性

昼と夜の営みの違い
による関係性

町並みの成立過程

今回行ったこと

2-1. 分析の継続

空間分析



コミュニティ分析



冊子作成



目次

活動報告

1. 中間報告会
以降の取組み



2-1. 分析の検討



3. 冊子
作成



4. 今後
の展望

2-2. 冊子デザインの検討

2-2.冊子デザインの検討



助成金の一部を用いた模型写真の撮影

(協力：乾写真事務所)

2-2.冊子デザインの検討



2-2.冊子デザインの検討

俯瞰した画角



宇都宮市泉町・本町活性化プロジェクト
Utsunomiya City Izumi-cho・Honnachi Revitalization Project



総括的な情報

断片的な情報



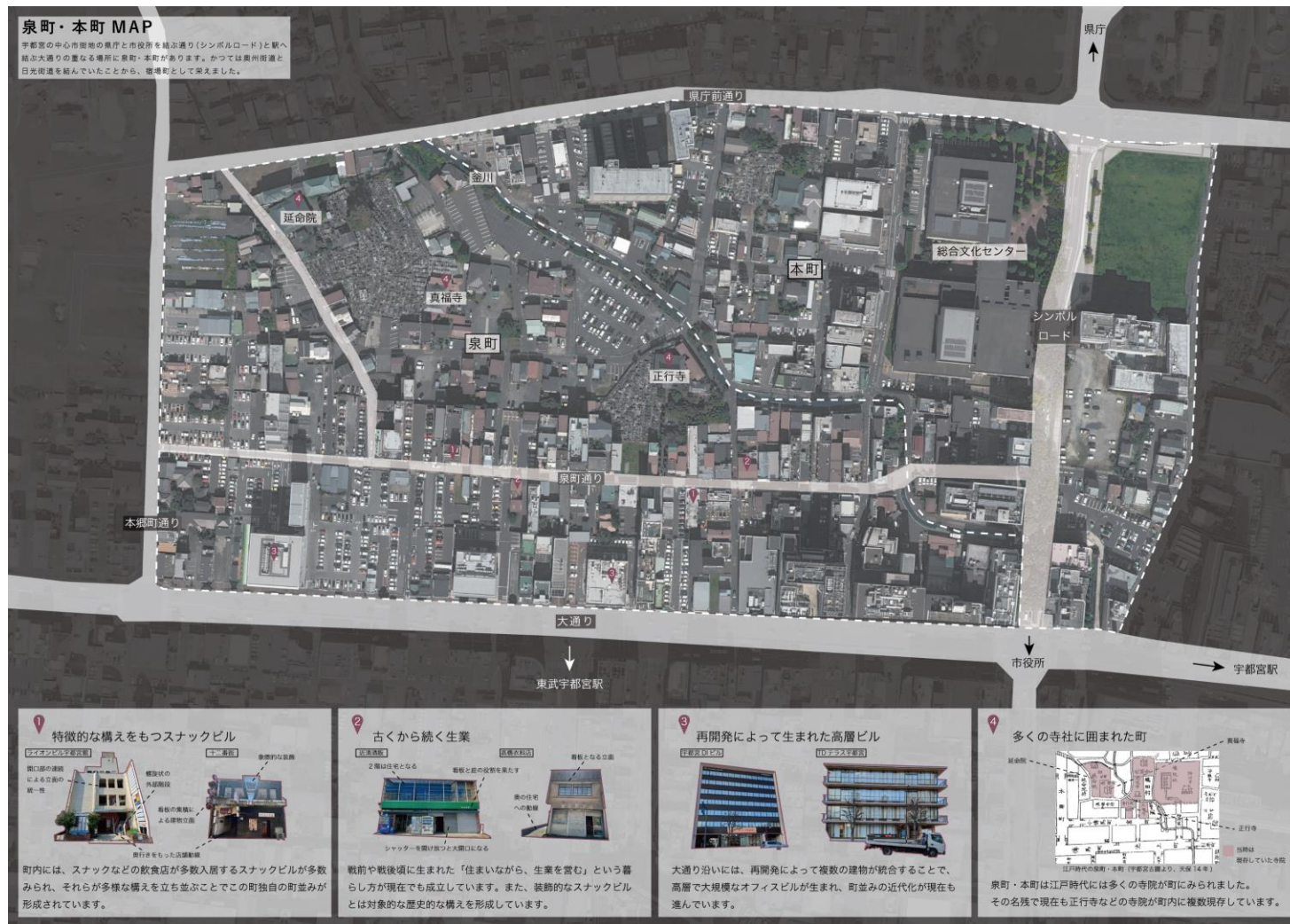
選定した表紙デザイン



アイレベルの画角

表紙デザインのスタディによる、最適な表紙デザインの検討。

2-2.冊子デザインの検討



歴史や暮らしも踏まえた泉町・本町MAPの作成

目次

活動報告

1. 中間報告会
以降の取組み



2-1. 分析の検討

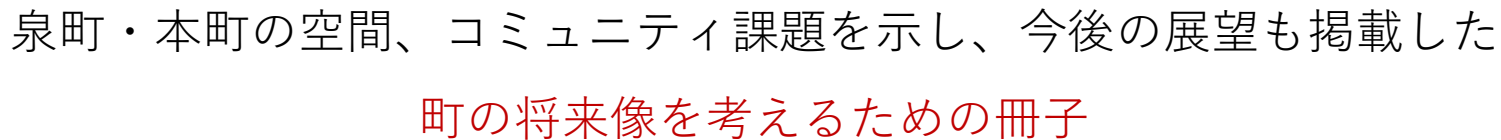


**3. 冊子
作成**

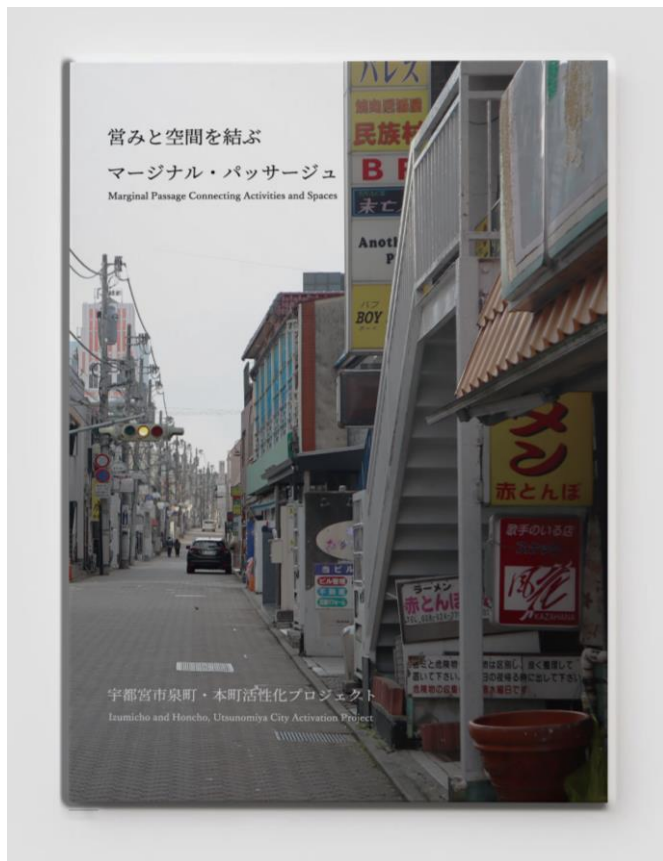


4. 今後
の展望

2-2. 冊子デザインの検討



4.冊子作成



【冊子活用が想定される場面】

- ・ スナック、BARなど町内の店舗への配布を行い、活動の周知を広げる
- ・ 地域の方との今後の活性化のための会議にて用いる
- ・ 町内外のイベント時に配布し、町外の方にも興味をもってもらう

様々な場面での冊子を用いることで、様々な人を巻き込み活動を広げながら、今後のアクションの具体化を進めていく。

4.冊子作成

今後の展望

STEP1 (現在)

町の将来を考える

町の空間と営みの分析から今後の将来像の例を想定する。

STEP2

空間利用の実践

- ・将来像をツールとしながら、今後のよりよい町の姿を創造
- ・町の姿から社会実験等などで、実験的な空間利用を行う

STEP3

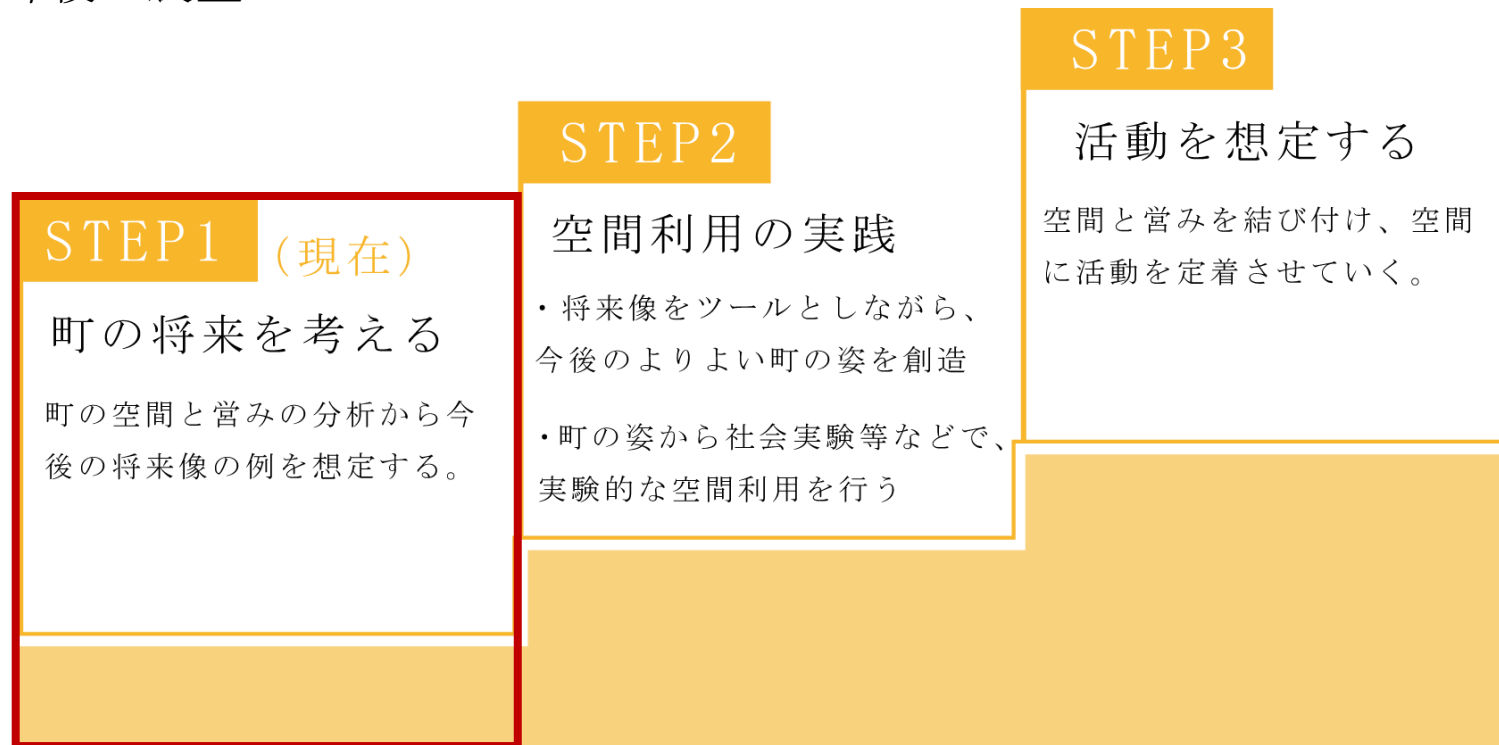
活動を想定する

空間と営みを結び付け、空間に活動を定着させていく。

冊子の最後には、今後の展望を記載

5.今後の展望

今後の展望

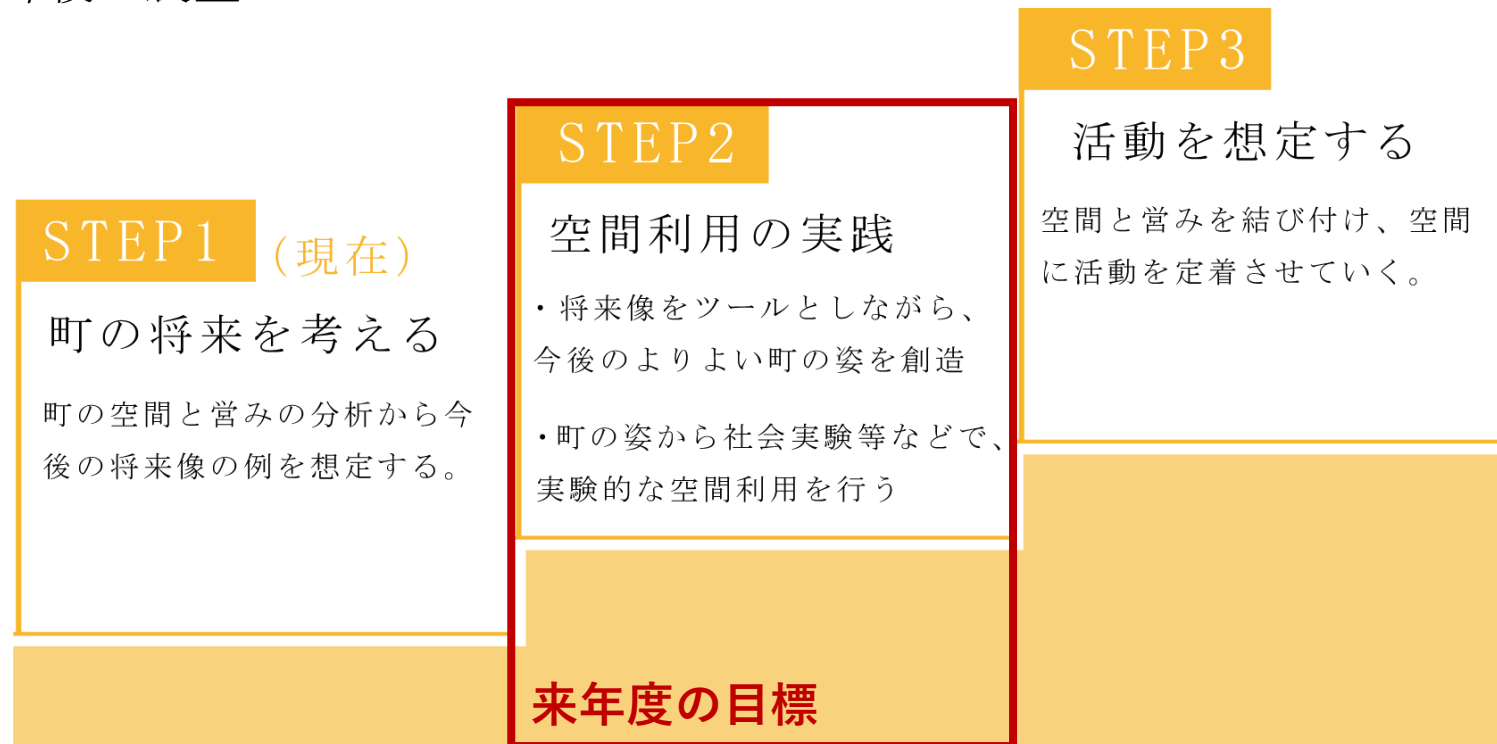


現在は、町の分析と将来像の構想から、

泉町・本町の「これまで」と「これから」について考えた

5.今後の展望

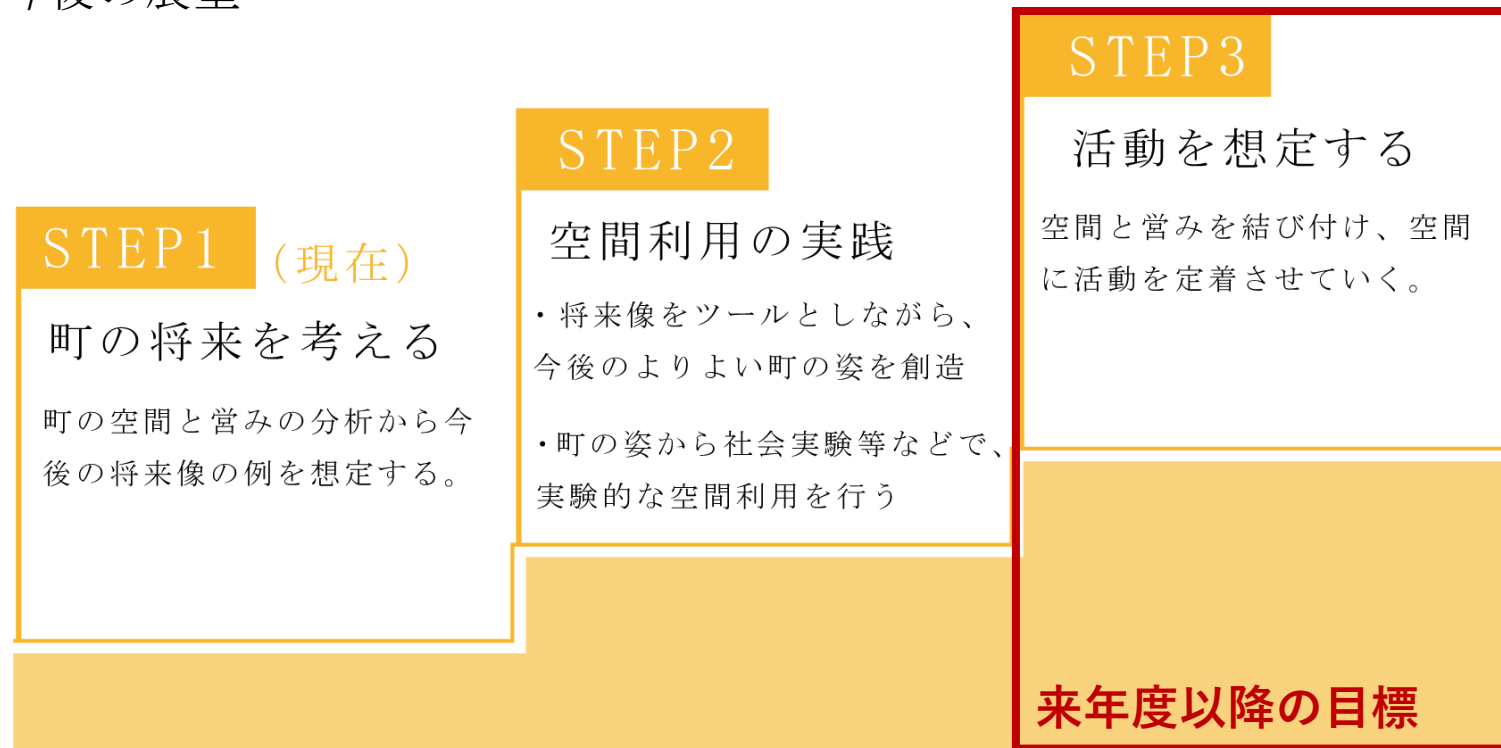
今後の展望



来年度は将来像をもとに実験的な空間利用を実現していく。

5. 今後の展望

今後の展望



来年度以降は空間利用からより空間に活動を紐づけ、
不活性な空間が活性化し、繁華街活性化へつなげる